

手



「眼は口ほどにものを言い」という諺を、私は「手は口ほどにものを言い」といわせていただきましたよ。

私のながい幼稚園生活を通して、数知れぬおさな子と出会い、夢ふくらませて、先生と声をかけ両手をさしのべる子ども達——不安なまなざしでじっと見上げているその手を優しくそっとにぎって迎える時も握手であり、そのたくましく育った手をさしのべて先生元気でねと力強い言葉を残して去ってゆく時の手のぬくもりを感激の涙で送るのも握手であることを想い、このたび拙いペンをとらせていただきました。

春四月ともなりますと、忘れることなく、新しい息吹を春風にのせて、何処の園にも祝福の香りとどける大自然の恵みに感謝せずにはいられません。入園式を待ちきれないで、門の横にある一本の桜も、見事に花開き、花吹雪となって舞う中を、歓声をあ

竹中京子

げて走りよってくる子ども達のはかるいまなざし。母親の手を離さないで涙を浮かべている○○ちゃんに明日から遊びましょうねと言葉をかけた時のあの安堵のほほえみを見ます時、母親にかわって豊かな愛情を注いであげることが、私達の使命であり、責任であることを痛感いたします。

先生の手はまわりかね、保育者の一番悪い姿と知りながら、顔をこわばらせ、自分でできるでしょ、一人でするのよと叫ぶ幾日かであることを反省し、今年こそ余裕をもって子ども達に接することを誓う私でございます。

梅雨の季節ともなり鬱陶しい日々が続いて、やりきれない気持ちにかられる時、ふと晴れ間に光を見せて、子ども達を一斉に初夏の庭にさそってくれることも楽しい想い出として残っておりま

す。雨に濡れたチューリップの花が、深紅にもえて美しく、黄色

や紫のすみれの花と調和して、子ども達に披露してくれますのは、春の終りを初夏につげる情景として子ども達の心をとらえたことと思います。

手をつないでなかなか離さなかったMちゃんも泥の中に動いている玉虫をみつけて、眼を輝かせて、真剣に見入っている姿に、自然がこんなままで子ども達の心をとらえるものかと、意欲はこのような機会に育てられていくことを教えられました。

折る、切る、作る、すべて手をつかっつての手仕事であつて、経験のつみ重なりが自信につながることも子ども達の生活を通してみることができました。

男の子どもも女の子の子どもも特によく遊ぶものは、鉄棒、登棒、砂遊び、リレー等すべて四季を通してみられる楽しい遊びであるようです。両手で赤い玉、白い玉を籠に入れて勝敗を競う運動会の行事も忘れられない思い出のようでございます。

九月には世界のホームラン王が日本に生れたことで、子ども達にとって話題の中心はもっぱら王選手に集まり、年長組のFクラス熱中した姿は、年少組の応援も含めて巨人ファンになりきつて雨の日も風の日も終日野球熱にかざされていたのも面白い現象であつたと思います。

お互いにルールを守り、一塁、二塁、三塁、ホームといったよ

うに、ホームランを打って走るそのすさまじさ。雨の日は玄関の広間を利用して遊びます為に、活動するには少しかわいそうにもなりますが、子ども達で計画し、実行しているのをみると、よく考えている場合と、注意しなければならぬ場合と、ほめたり、たしなめたり忙しい日々です。しかし何事にもかえがたい幸せを感じております。

一夜の雨に園庭が黄色い絨毯をしきつめた美しさに変わったことも、銀杏の葉を花束にして、家苞いんぼにしたことも、冬になって幼稚園の庭を銀世界に変えたこともみんな楽しい思い出でした。

手袋をはめて、長靴をはいて雪合戦に興じ、雪だるまをつくったことも、冷たく真赤な手をふしくれた私の手で包んであげたことも、冬の楽しかった思い出として脳裡を駆けめぐります。

池の水を手にとって、冷たさを感じない程のよるこびをもたらしにくれるものは何なのでしょう。子ども達の手は偉大な芸術を生みだす力となり、高らかに歌ったその音は、不滅の響きを残して次の世代に受けつがれてゆくでしょう。その無限の可能性を秘めて育てゆく子ども達のために、愛情をおしまない先生である為に、努力し、高い理想に向かって前進してまいりたいと思

（十文字幼稚園）